



くらしたい国、富山

とやまファン 倶楽部

No.21

2007

CONTENTS

リレーエッセイ 20 那須田 務	2P
第12回とやまファン倶楽部会員交流会	3P
とやま賞	4P
とやまの人づくり事業紹介	5P
会員交流広場	6P
INFORMATION	7P

音楽を聴く人、環境

那須田 務さん



プロフィール

那須田 務(なすだ つとむ)音楽評論家
1957年静岡県生まれ。ドイツ国立ケルン音楽大学音楽学科修了(M.A.)。帰国後は音楽評論家として、音楽雑誌、新聞、CD解説などでCDおよびコンサート批評等の執筆活動を行なう。1989年から富山県魚津市の洗足学園音楽大学短期大学音楽科非常勤講師を経て、1995年より2002年まで同短期大学専任講師を務めた。著書に『音楽ってすばらしい』(ポプラ社)『名曲名盤パッパ』(音楽之友社)、監修・著作に『ビジュアルで楽しむピアノの世界』(Gakken)の他、『古楽演奏の現在』(音楽之友社)『古楽への招待』(立風書房)等数多くの共著書がある。また、近年はドイツの児童文学の翻訳書を手がけ、2007年11月にジークナー著『ちいさなドラゴンコナツ』(ひくまの出版)が刊行されている。現在、レコード・アカデミー賞選定委員。日本ペンクラブ及び、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン会員。洗足学園音楽大学・同大学院非常勤講師。

はある程度の精神的な「体力」が必要なのである。それだけの余裕が、ドイツ人同様、富山の聴衆にはある。

それにしてもあの頃はよかったなあ。

ちよつと歩けば富山湾だし(先輩先生や学生たちと釣りや七輪パーティをした)、二十分ほど車を走らせれば僧が岳の麓。そこには落ち着いた時間と本物の静けさがあった。CD録音のために、東京のレコード会社の録音チームが好んで富山のホールを利用するのもよく分かる。ビルや車が密集した大都会では耳に聴こえないレヴェルでの騒音やストレスを抱えた人々の意識がコンサートホールの中にも入り込んでくるから、富山のホールを取り巻く環境はかけがえないものなのだ。もちろん、音楽家にしてもその方がどれほど音楽に集中できるかわからない。豊かな自然に囲まれた静かな生活と理想的な聴衆。音楽にとって、これほど嬉しいところはない。

している。

その入善のクラシック音楽の講座で聴講生の方々と接していると思うところがあつた。東京で市民講座をするのはどこか違う。こちらの拙い話や音楽にじつと聞き入っているお姿を前にしていると、どこかほっとする。懐かしいとすらいえる。何なんだろう。しばらく疑問だつたのだが、あるとき、受講生のお顔が、コンサートを聴き、大学の講座を受けているドイツ人のそれと重なつたのだ(ドイツの大学には社会人が結構いる)。そう、入善の人たちの音楽の接し方は、ドイツ人のそれに似ている。

その違いを、とても大雑把に言つと、東京の人たちのそれには、「教養」や「フアッション」「癒し」という言葉がちよつとくだけけれど、富山の人たちはもっと素朴で、どこか精神的な充足や刺激を求めにいらしている方が多いように思えるのだ。

まあ、それもむべなるかな。富山から東京へ戻ると、とたんに時間の経過が何倍にも早く感じられる。街角を行く

東西ドイツの壁が崩壊する直前にドイツ留学から帰国し、雑誌や新聞にクラシック音楽に関する文章を書き始めた。洗足学園音楽大学で教鞭をとるようになり、それと同時に魚津にある洗足の短期大学でも教えるようになった。富山には最初、隔週で通っていたが、そのうちにそれが週に一度に、さらに専任教員になつて数年間、短大が少子化の影響で閉学するまで魚津市に住んだ。魚津に通い出した頃、入善のコスモホールから、クラシック音楽に関する講座をしないかと声を掛けていただいた。ホールを応援する聴衆の核となるものを作りたい。そのようなことだつたと思う。

数回のシリーズで最初はロマン派、続いてバロック音楽について、ホールを会場にして、スクリーンにスライドを映し、CDやレコードを聴きながらお話をする。性別も年齢も様々、人数は多くて300名ほどだつたと記憶しているが、駆け出しの音楽評論家にはとてもよい勉強をさせていただいたと感謝

第12回とやまファン倶楽部会員交流会

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部会員交流会」が8月24日(金)にホテルフロラシオン青山(東京)で約140名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。

会場には富山の新鮮な魚や地酒のほか、「氷見牛」や「深層水あわび」、「シロエビ」を使った料理を用意し、会員の皆様に富山の味を堪能していただきながら、示唆に富んだご助言・ご提案を多くいただきました。

開会挨拶



中沖理事長

開会挨拶



川田代表世話人

乾杯



藤子代表世話人

開会挨拶



石井知事

お礼の言葉



仲県議会議長

新規会員の皆様の紹介



新規会員の皆様の紹介



TOYAMA
FAN
CLUB



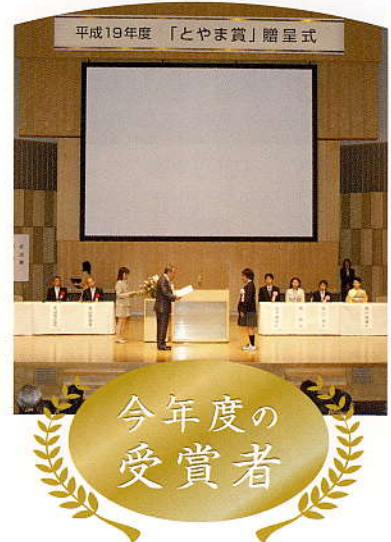
とやま賞

「とやま賞」とは

「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設され、今回で24回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者又は富山県内在住者とし、学術研究、発明発見、芸術文化及びスポーツの分野において顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体を対象としており、県内外で活躍されている方を表彰し、その活動を奨励しております。

今年度の「とやま賞」贈呈式は、5月24日(木)に富山国際会議場メインホールで高校生や一般の方々約600名参加のなか行われ、学術研究部門で3名、芸術文化部門で1名、スポーツ部門で1団体が受賞されました。



学術研究部門(免疫発生学)



千葉大学医学研究院免疫発生学
准教授
山下 政克氏

学術研究部門(地球化学海洋学)



富山大学大学院理工学研究部
准教授
張 勁氏

学術研究部門(歴史学)



富山県立山博物館
主任学芸員
福江 充氏

芸術文化部門(箏)



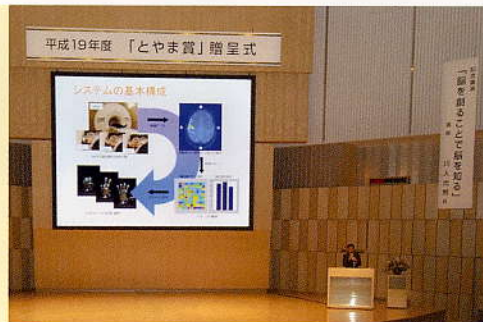
黒川邦楽院
学院長
黒川 真理氏

スポーツ部門(柔道)



富山県立小杉高等学校
女子柔道部

平成19年度 贈呈式及び記念講演



贈呈式

- ◆あいさつ／理事長 中沖 豊
- ◆選考経過報告／選考委員長 金岡 祐一
- ◆「とやま賞」贈呈
- ◆祝辞／富山県知事 石井 隆一
富山県議会議長 仲 外喜雄
- ◆各受賞者の言葉

記念講演

- ◆講師 川人 光男氏(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所所長・ATRフェロー)
- ◆演題 「脳を創ることで脳を知る」

川人先生は、脳のはたらきと同じ方法で機能するコンピュータやロボットを創ることにより脳を本質的に理解するという研究の内容について、紹介されました。理論に基づいて学習させたロボットが、自分で考えて行動するロボットとなる話や人間の脳からの信号を取りだして機械を動かすサイボーグ技術の話など興味深い内容満載の講演でした。講演の最後には、会場の高校生諸君に対し、「自分の進みたい分野についてだけでなく、それ以外のことにも興味をもって勉強してもらえると、10年、20年後に本当に社会から求められる人になれると思う。」と激励していただきました。

「夢の卵」 育成事業

この事業は、富山県の小中学生にいろいろな可能性を秘めた夢を数多く持ってもらい、自分の将来を考えてもらうため、子どもたちの将来の夢を書いた作文を募集し、優秀者を各分野の第一人者のもとに派遣する事業です。

今年度応募のあった750作品の中から選考された5名の子どもたちが、夏休み期間中に短期入門しました。その概要を紹介いたします。

夢の卵 地球や宇宙環境を守る
宇宙飛行士になりたい

入門者 大庭 美彩さん(富山市立奥田北小学校6年)

入門先 JAXA東京事務所
JAXA筑波宇宙センター
日本科学未来館

入門内容

JAXA東京事務所では、宇宙飛行士の方と対面しました。JAXA筑波宇宙センターでは、宇宙飛行士となるための訓練内容について説明を受けました。

日本科学未来館では、スペースシャトルの船室模型や宇宙関連の展示を見学しました。



夢の卵 海難事故から人々を守る
海上保安官になりたい

入門者 水島 大和さん(黒部市立宇奈月中学校2年)

入門先 呉海上保安部 海上保安大学校

入門内容

呉海上保安部では、巡視船内を見学したり、現役の潜水士と対談したほか、実際に、潜水ポンペを背負うなど、職場体験を行いました。

また、海上保安大学校では、オープンキャンパスに参加し、学生による訓練や施設の見学を行いました。



夢の卵 折紙作家になり折紙博物館をつくりたい

入門者 杉本 康紘さん(富山市立山室中部小学校6年)

入門先 日本折紙学会

入門内容

日本折紙学会が主催する折紙探偵団コンベンションに参加し、講師の指導のもと作品の制作に取り組みました。

最後は、百数十回折りの作品を折りあげました。



夢の卵 ユニセフ職員になって
子どもたちを貧しさから救いたい

入門者 新保 拓実さん(高岡市立木津小学校6年)

夢の卵 「国境なき子どもたち」に加わり、戦争や
貧困に苦しむ子どもたちを支援したい

入門者 砂原 綾佳さん(滑川市立早月中学校2年)

入門先 特定非営利活動法人日本ハビダット協会
アジアの女性と子どもネットワーク(AWC)
特定非営利活動法人「国境なき子どもたち」(KnK)

入門内容

ハビダット協会では、世界の恵まれない貧困層のことを学習しました。また、募金箱に入れられた外国硬貨を仕分けするボランティア作業を体験しました。

AWCでは、子どもたちが学校に行けない理由や現状などについて説明を受けました。

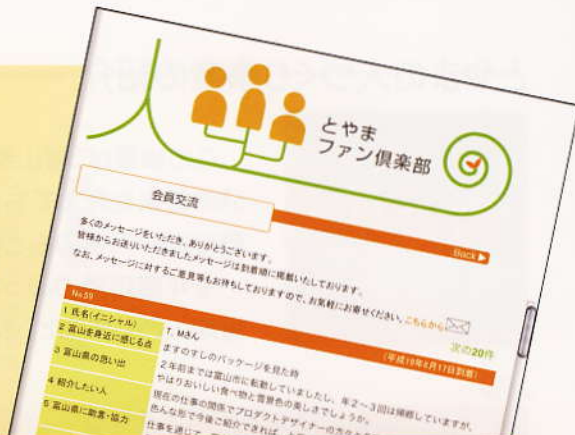
KnKでは、フィリピンのストリートチルドレンやスカベンジャーとして生活する子どもたちの現状について説明を受けました。



会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部紹介～

今年度の会員交流会(8月24日(金)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp/fan/set06.htm>)に掲載させていただいております。「富山県への助言」の一部をご紹介します。



アジアの国々との友好都市拡大と交流の促進を。

田中さんのあとに続くよう理科系重点の教育。

進学率(高校、大学)の上位で嬉しいが、道徳教育(含む信仰心etc)に特色ある施策の強化は如何でしょう。

大都市以外の地域で格差が増大し、地方の衰退が目立ってきたといわれていますが、富山はその例外として、他県のモデルとなり先導できるような新しい施策を期待しています。

先ず駅前から心をなごませる何かを考えて欲しい。ほっとする又、旅の疲れをいやすサービスを考えて下さい。

ものづくりの伝統に加え、雄大な自然と豊かな風土を活かした観光、体験型観光こそ新しい施策で、世界中の人に富山の素晴らしさを体で感じて欲しい。

東アジア地域との交流促進による地域活性化策の検討も必要。

東京からたまに来るとやはり閑散とした感じ。様々の施設、施策を富山市中心部、高岡市中心部などに集積して核とするようにしないと、ますます全体としてさびれてしまうのではないかと！

駅に降りると美味しい水が喉をうるおしてくれるとかーきっと途中下車がしたくなると思う。

富山歴史博物館を設けて下さい。
富山にルーツを求める人達のために。

メディアを活用し、富山の楽しい所をPR(イベント、祭りを企画)。

かけがえのない美しい自然の価値を今以上に評価する施策を。

環境立国を貫いてほしい。

豊かな環境をいつまでも保全して欲しい。

1丁の活性化の為。高校、専門学校等へ企業実態スキルアップ。

近畿地区での味覚、観光等々の宣伝が福井、石川に比較し少ない事が残念で有る。

もっと都会で富山ブランドをPRすれば観光客が呼べると思います。

東京駅から北陸新幹線で富山へ行くのが夢です。一日も早い開通を願っております。

新幹線の建設で多くのメリットはありますが、開通後のローカル線の運営にはぜひ万全をつくしてほしい。

数年後の新幹線開通にともなう、いわゆるストロー現象対策を他地域の状況もよく分析して、検討しておくことも必要。

特に、団塊の世代向け体感ツアー(立山登山、越中菜膳食べ歩き、山菜取り等々)健康志向を対象としたツアーを開発しては如何ですか。

INFORMATION

富山県からの
お知らせ

くらしたい国、富山
「定住交流促進サイト」を
ご覧ください。

富山県は、「くらしたい国、富山」推進本部を設置し、市町村と連携して定住や半定住（二地域居住）をされようとする方々を応援しています。

くらしたい国、富山「定住交流促進サイト」では、市町村の支援事業のほか、「魅力」、「自然」、「産業雇用基盤」、「生活基盤」、「習俗」といったコンテンツの中で、できるだけ日常に根づいた情報を紹介していますので、普段着の富山を知っていただくことができます。是非、ご覧ください。

ホームページアドレス
<http://toyama-teiju.jp>
（「くらしたい国」で
検索できます。）



（お問い合わせ先：富山県地域振興課 TEL 076-444-4496）

お陰を持ちまして平成8年7月に822名の会員でスタートした「とやまファン倶楽部」も
年々交流の輪が広がり、現在会員数1,093名の会となっております。

今後とも会員の皆様からの新規会員のご紹介やご意見、ご要望などがございましたら、
事務局まで情報をお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

TOYAMA FAN CLUB



お問い合わせ先

■事務局

財団法人 富山県ひとつくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL 076-444-2000 / FAX 076-444-2001

E-mail: toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

■連絡所

富山県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL 03-5212-9030 / FAX 03-5212-9029

富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL 06-6445-2811 / FAX 06-6445-2611

富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階

TEL 052-261-4237 / FAX 052-263-7308